



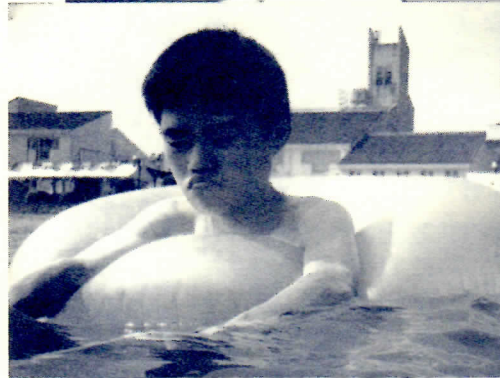
おちほ

第44号 平成14年10月13日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一



びわこ

夏!



最後？

高島町の「ホテル西びわこ」

月内で営業停止

入浴施設を来月無料開放



今月末で営業を停止するホテル西びわこ (高島町)

みなさん今年の夏も暑かったですね。海や山へ出かけた方も多いと思います。落穂寮の夏は、そう“湖”。今年も2泊3日で7月の終わりに琵琶湖へ泳ぎに行つて来ました。今年も高島町の萩の浜にあるホテル西びわこさんにお世話になりました。当日は晴天の中、寮生さん達も観光バスに少々しゃぎながらも乗り込んで1時間半ほど到着。昼食後、さっそく湖へ泳ぎに出ました。みんな自分の浮輪を持って水の中へ。今津に比べると水もぬるく少々濁っていましたが、寮生さんはおかまいなしで水に潜ったり水をかいたりかけられたりと大喜び。またこの浜は遠浅で、浮輪をつけた寮生さんを連れて岸のテントが小さく見えるほど沖へ出たりもしました。ちょっと恐かったかもしれませんが、いつもと違った経験ができたのではないのでしょうか。3日目には、前夜の強風のためか大量の水草が岸に流れつき泳げないというアクシデントもありましたが充実した3日間でした。さて、このホテル西びわこ、来年もぜひお世話になりたいと職員一同考えていたところ、今年の8月で閉鎖になるとしまいました。何故落穂寮の行くところばかりこうなってしまうのか？ 来年はどこへ行きましようか、どなたかいいところを知りませんか？

ふくむ今昔

草木の手入れに汗をかく

理事長 増田正司

家から寮について自動車
を管理棟に面した駐車場に
おくと、いつも顔なじみの
寮生がドアの窓に顔をお
しつけ覗きこむ、あたかも
朝の挨拶かのように。

今年は何年にもない季節の移
り変わりのようだが、木々が芽
吹きはじめ寮内の樹木がいき
きと色輝くのを見ると、自分
の中にも生氣が

あふれてくる。

さくらやつつ
じが花一杯に咲
きそろう四月、
五月は十二分に
目を楽しませて
くれる。

大津市南郷

からこの地に移
るときもつてき
たつつじが見
事に花を咲か
せてくれる。
寮内のたくさ
んの樹木を見
て、手入れし
緑一杯の楽し

みを作ってくれたのは、今
はなき本田憲生君（杉山寮
建設にいたる基礎づくり中、
病に急逝）のたゆまない献身
のおかげだ。

この頃寮内の草木の手入れ
を始めるようになって、僕は
いつも彼が苦勞し汗を流して

改めて感謝と
尊敬の思いを
もつのである。

車から降り、
目にする木々
が手もいれら
れず、生い茂
るままの姿は
無様すぎ庭木
として異様だ。

花を終えたつ
つじが花がら
にしほみ、背
丈の無揃えも
気になる。周
辺を見回すと、
いずれも手入
れされず野放
図にのびた草

木が目に入ってきた。今、
本田君の過去の奮闘を思い、
その成果を台無しにするこ
とは彼の努力を無にするこ
とになる。彼に報いるため
にここは踏ん張らねばなら
ないと考えた。なれない手つき
ながら連日汗を流している、



▲篠山マラソンで寮生と完走された頃の本田 憲生 先生

手をやすめ休
憩のひととき
次が思い浮か
ぶと、予定
の作業がきめ
られる。元氣
であるかぎり
続けることに
なるだろう。
かつて、大
先輩の田村一
二先生に言わ
れたが「木を
育てることが
できない輩は
教育を語る資
格がない。」近
江学園で働いてきたころ、
園内の草木が手入れされず、
荒れ放題の状態と嘆かれて
いわれた言葉だ。生活即教
育を実践する学園にふさわ
しいことか？、職員朝礼で
の痛棒であった。人が育つ
ためどのような生活環境がよ
いか、昔から言われてきた。
木も草も所を得て人間と共
存するつながりが最近もと
められている。
本田君や田村先生を思い出
し励みもして、がんばって
いこうと思う。
(14・9・11記す)

ふくむ今昔

アイ アム サム

寮 長 山 下 陽 一

ものがたり

アメリカでいい映画が制作され公開されました。タイトルは「アイ アム サム」で、そのものぐたりは次のようなものです。

最初の場面はコーヒーなどに入る砂糖の入った小袋を種類ごとにきちんと整頓している様子をカメラが手の動きのクローズアップで追いかけてます。自閉傾向のある人たちによくある固執的な行動ですが、神経質な手作業の様子から始まっています。主人公のサムは一生懸命に生きようとしているのですが、知的障害がある青年で、ホームレスの女性との間に女の子が生まれました。出産直後ホームレスは失踪するのですが、彼は周囲の人たちに支えられ子どもを育てます。やがてこの女の子が七歳に達するころ、役所のひとたちによって、彼は子どもを養育する能力が無いものとされ親子関係が切り離されます。彼はそれに対抗するため、弁護士彼女自身も家庭的に問題をかかえていると共に裁判所で子どもを育てることができるとを主

張します。法廷におけるやりとりの中に、やがて周囲のひとびともいろんなことに目覚めさせられるというストーリーです。彼の、家族を守りたいという主張に感動を受けるのですが、なぜそんなにも本心からゆさぶられるのでしょうか。

この映画の制作にあたって制作者たちは事前の調査をしたのですが、そのひとつ、ロス・アンゼルスのL・A・ゴールという障害者の支援団体非営利があります。自閉症、知的障害・学習障害、神経障害のある人たちの支援活動を行なっていて、実際の支援を受けながら生活している人たちがモデルになっています。

少し前の映画ですが、自閉傾向のある青年の物語「レインマン」という映画がありました。レイマンを演じたダスティン・ホフマンもよく役柄を作っていると思ったものでしたが、サム役のショーン・ペンも自閉傾向を持つ障害のある人たちのごこちない仕事をよく演じていると思いました。

折り鶴

映画の中にアレツと感じた場面がありました。障害のある人たちが折り紙をしており、しかも「折り鶴」が小道具として使われてい

るのです。これは先にあげた、L・A・ゴールのプログラムの中に手工芸作品の制作により自立を促進するという実践がこの映画制作の素材になっているようでした。

指先の細かな機能訓練のために取りあげられているのですが、それに日本の折り鶴が取り入れられていらいしいのです。「折り鶴」が治療的役割をはたしていると考えれば、さしずめ「折り鶴療法」ともいえるプログラムがあるのかもしれません。

落穂寮にもそんな人がいます。やはり自閉的側面が強いNさんが、そうで、長方形の広告紙を正方形に正確に切り取り、折り紙をしまし。紙片にあらかじめ折り目を付け、角と角をうまくあわせて折っています。「鶴」や「やっこ」を折っているようですが、行動障害を持つNさんがしていると意外な側面をみる思いがしつつも、一生懸命折っているところなど見ると、いじらしい様子にかわいらしさを感じないわけには行きません。

思いのたけを伝えたい

知的障害のあるひとは、自分の気持ちを伝えるのに、ことばを巧みに使い分け、上手に伝えることはできません。サムは「ビートルズ」の

ことなら何でも知っているのですが、その知っているはずかのことばで自分の思っていることを伝えようとします。しかし、必死に話しても自分の思いが伝わらない時、自分自身がどうしようもなくなり、パニックを起こしてしまうことになり。日常にコミュニケーションや感情のやり取りがないと、理解できない場合もたくさんあります。

かれらが伝えようとしてひねり出したことばがときおり大変面白いことばを使いをして、おもわず大笑いさせてくれるときがあります。Yさんもそのひとりで、誰のことばをコピーしているかわからないのですが、

「どっ ちか悩むんや」
などと言ってくれるのです。その場にちょうどはまったことば使いに、傍にいた私たちはおもわず爆笑しました。

このような「思い」の伝え合いは、日常にある簡単なことばのやり取りや感情のキャッチボールがあつてはじめて可能なことだろうと思いますし、日常のさまざまな問題行動に対しても彼らの違った側面が見えてきて、ご本人の「思い」に沿った対応ができるのではないかと思っています。

飯盒炊さん

日焼けならぬ
火焼け▲冷たいけど、
気持ちイイナー。

8月1日(木)、男子棟は土山の田村川に飯盒炊さんに行きました。担当職員はこの日の為に滋賀のあちこちを探して、この場所にしたとの事。(以前も行ったのですが)男子棟寮生さん職員総勢四十一名でいざ出発。台風の影響で川の増水が心配でしたが、到着してみると大丈夫で。寮生さんは川遊びへ。当日はとても暑く、寮生さんは川遊びを楽しんでい

ました。水着を持ってこなかったある職員はとても悔しがってました。

川遊びをしてお腹も空いた所で昼食のバーベキューに。もちろん職員が焼くのですが、職員S「油引くでー。気を

つけてやー。」職員K「あいよー。」油を引いて野菜を焼くと…。油がはねて体にかかりました。暑かったので水着で焼いていたので本当に熱かったです。結局バーベキューは楽しく食べれたものの約2名火焼けをしてしまった職員もいました。いつもの寮の中とは違い自然の中でとても楽しい一日になりました。でも本当に熱かったです。(職員Kより)



▲バーベキュー最高！

♪音楽に合わせて♪

みなさんも家や職場で音楽を流して過ごしていませんか？今回は男子棟での「音楽」について紹介したいと思います。

新施設になって成人施設となり、個人の楽しみという事で各部屋にTVやラジカセは用意しましたが、ホールにはあえて音楽を流してはいませんでした。しかしホールで過ごしている寮生さんは黙って座っている(ひよっとしたら考え事をしているかもしれないが)ながら音楽を流した方が体も動かしてもらえるかもしれない、という事もあり、第3ホールに音楽が流れる様になりました。すると効果はてきめんで、体を揺らしたり、笑顔を見せたりと色々な表情、行動が見られました。また童謡だけでなく、歌謡曲や色々なものを流しています。



音楽が流れるとついつい体を揺らしたり、手をたたいたり本当に音楽大好きです。自分専用のウォークマンもあるので日中はそれを聴いて体を動かしています。でも困った事に夢中になりすぎて、職員の声かけが耳に入ってくれないのです。ごはんの声かけをしても耳に入らず、体を揺らしている山岡さんなのでした。『ごはんだよー。山岡さん!』

▲これが山岡さんのマイウォークマン
耳に当てて楽しんでいます♪

「たんぽぽ組クラス外出」

みんなほがらか、たんぽぽ組の四名は、九月九日にびわ湖わんわん王国へ行ってきました。生き物に触れ、楽しいひとときを過ごしてもらおうとこの場所を選んだそうです。実は犬が大好きな担任も密かにこの日を楽しみにしていたらしい。

当日はとても天気がよく、絶好の外出日和となりました。出発前からハブニングが起きてしまい、予定時刻から遅れての出発となりましたが、いざわんわん王国へ。

まずはそよ風列車に乗車、園内を一周しました。車とは違う乗り物にソワソワしつつ、心地よい風を受けながら犬だらけの風景を堪能しました。続いてふれあいパレスへ。直接犬に触れることができ、広場で、実際みんなにも触ってもらいました。ニコニコしながら撫でる寮生さん、ひきつった顔で犬にされるがままの寮生さん、まったく犬に関心がない寮生さん、



▲なでなで。



▲犬ってかわいいねえ♡

一人一人違った表情を浮かべていました。

その頃担任もムツゴロウさん並みの抱擁を犬と交わし、かなりご満悦。昼食後はお土産屋さんへ行ったり、犬の赤ちゃんを見てまわり、最後に犬のマジック・サーカスを観ました。箱の中から消えたり、つな渡りや玉のりをする犬達をととても真剣な眼差しで観ていました。音楽にやたらノリノリの寮生さんも若干一名。帰りの途中でおやつを食べ、帰寮しました。アニマルセラピー効果で癒され、クラスの仲も深まり、とても充実したクラス外出だったなあ、と担任は思うのであります。

「すみれ組クラス外出」

一見おっとり、実は行動派なすみれ組の三名は、九月十一日に琵琶湖子どもの国へ行ってきました。

この日も天気がよく、アウトドアな外出にはもってこいの天気でした。キャラバンに乗りこみ、さあ出発！途中で昼食を買い、約二時間の車の旅。到着してすぐ木影で昼食をとりました。長旅の疲れなどないかのように、みんなもりもり食べていました。

腹ごしらえも完了、昼からは早速アスレチックコースに繰り出しました。少し高い所や網の上を渡ったり、難関を次々と突破していったのですが、約一名高所や不安定な足場に「怖い」と歪んだ顔で叫び、結局職員に抱きかかえられ

難関を突破中。ちょっと怖いけどがんばるぞ！

ていました。アスレチックで汗を流した後は、サイクリングをしても必死でしたが、乗っている寮生さんはとても楽しそうでした。

最後にもう一つのアスレチックコースで遊びました。先程の怖がっていた寮生さんはとうとう、

やはり怖かった様子で、ずっと土管のような所にもぐり、出てきませんでしたが、帰りの車の中では、さすがにみんな疲れたのでしょいか、行きと違う人を見せているかと思うくらい静かでした。

天気も良かったし、けがもなく、おもいっきり羽根を伸ばすことができ、本当に楽しい一日だったと思います。夜もグッスリ眠れたみたいです。次の日筋肉痛でヒイヒイ言っていたのは職員の方でした。



機能訓練の竹班



六月十八日に第一回
目の石部中学校との交
流会が行なわれまし
た。十九名の生徒さん
が来られ、落穂寮生と、
歩行・機能訓練・空缶
拾い歩行・お風呂掃除
のそれぞれの活動に参
加し、取り組んで頂き
ました。後日、ふれあ
い活動の感想文を拜見
し、各々、様々な視点
から多くの事を感じて
くれた事大変嬉しく
思います。ここにその
一部を紹介させて頂き
ます。十月に第二回目
の活動があるのです
が、感想文に書かれて
あるように、どんな関
わりをもってくれるの
か、とても楽しみにし
ています。

石部中交流会

ふれあい交流を終えて

高田 大樹

最初はすごくきんちようしていま
したけど歩いて行くうちにきんちよ
うしなくなつて、「もつとこつちよ
りいって何をしゃべれば良いのかと
か全々わかりませんでした。それに
僕と一しよに歩いてくれた人はベ
スが速くて僕がひっぱられながら歩
いていました。あと僕がうれしかった
のは僕が「行こう」とかぼうしかぶり
」とか言ったら聞いてくれたことです
。今日は思ったよりすごく楽しかつ
たです。ありがとうございます。

落穂寮でのふれあい活動をおえて……

はじめはつくし組の「ゆつくりと

歩行」は簡単だろうとかるい気持
ちでいどんでいしよに歩くので
「なあんだあただ手をひっぱれば
いいだけか。」そんな風に思いな
がらいざひっぱろうと思つたらむ
こうが歩いているのかひっぱられ
ているのかぐらいに重かつた。そ
の矢部さんという人はよく観察し
ていたら全々まばたきしていなか
つた。それでまばたきをしたのを
見たの一回だけだった。しどろ
の先生が二人いてもう一人はしど
ろは知らなかつたみたい。
おわたつた時には左足、右足がとつ
ても痛かつた。手は左手でひっぱ
つていて、休けいの際に手をはな
したときに左手がマヒした感じが
でた。でもな
にはともあれ無事
におわつて良かつ
た。……

あすなる班のお風呂掃除

山本 恵子

私は落穂寮へ行つて「あすなる班
でふろそうじをしました。寮の人は
自分か思つていたよりしつかり人の
話を聞き分拍されたことをしっかり
しててすてきななと思つた。それに
その人たちの先生は、寮の人たちと
すぐ仲が良くすくしんらいされ
てふるそうじを毎日しているとか聞い
たとき、私はえらいなと思つた。自分
だつたら、すぐあきてしまひそうだ
しそのかん寮の人みんな協力して先
生の話聞き毎日そうじをしていて
えらいなあとと思つた。

▽社会的弱者と呼ばれる人たち
が、その人生をより良いものとし
て送るために必要なものは何なの
でしょうか。法律でしょうか。そ
れに伴つた制度でしょうか。制度
を実現させるお金でしょうか。ど
れも必要なものではあると思いま
すが、絶対に欠けてはならないも
のがあります。これが欠けると成
り立たないのです。それが「ひと」
です。弱者と呼ばれる人達の権利
を守る、保障するためには、その
人達の人生に携る人達のそれらが
保障されなければならぬのでは
ないでしょうか。余裕のない環境
では、ゆとりのある空間も、おお
らかな対応も難しいのではないかと
思います。これが、「生の声」です。

泉



▲つくし班の歩行訓練



「ピンからキリまで」わた
したちを知つたかたが、ま
た心を砕いてくださったが、ま
やりたい放題の現状を見か
ねてのことなのだろうか。
もうだめかと思つていたが、
これで再び活き返れるだろう。
どれだけの人が、その大
きさに気付いているのか。
私はただ、じつとここに留
うとするか。